

Kodomo × Machi × Inaka Project

こども×まち×田舎 プロジェクト

<http://www.kodomo-machi-inaka.com/>



Kodomo × Machi × Inaka Project

こども×まち×田舎 プロジェクト

こどもたちと田舎へ行ってみよう！

私たちの暮らしの価値観が、少しずつ変わりはじめています。
「こども」の存在をきっかけに、暮らしや生き方を見つめ直し、
自分たちの手でつくっていこう！
生きるところをよくしていこう！という人たちがいます。

田舎で子育て、こどもが変わる。大人も地域も・・・
自然と向き合い、人々と助け合い、暮らしをつくる。
一歩外へ出れば、大家族。
そこで育まれる、生きる強さ、豊かさとは。
大人や地域の姿から、未来を生きることのできるこどもたちへ、何を繋いでいくのでしょうか？
こどもとおとな、まちと田舎の交流から、自ら未来を築く力（こどもゴコロ）を思いだし、
つながりを育み、暮らしや生き方、地域のありかたについて、問いかける機会とします。



Kodomo × Machi × Inaka Project

こども×まち×田舎 プロジェクト



contents

01 「こどもたちと田舎へ行ってみよう」

《都市農村交流 その1》志賀郷 綾部市

- 05 自分見つけた！志賀郷ライフ
- 07 どんな暮らししていますか？
- 09 里山の暮らし体験～子どもも大人もとこん遊び尽くす～

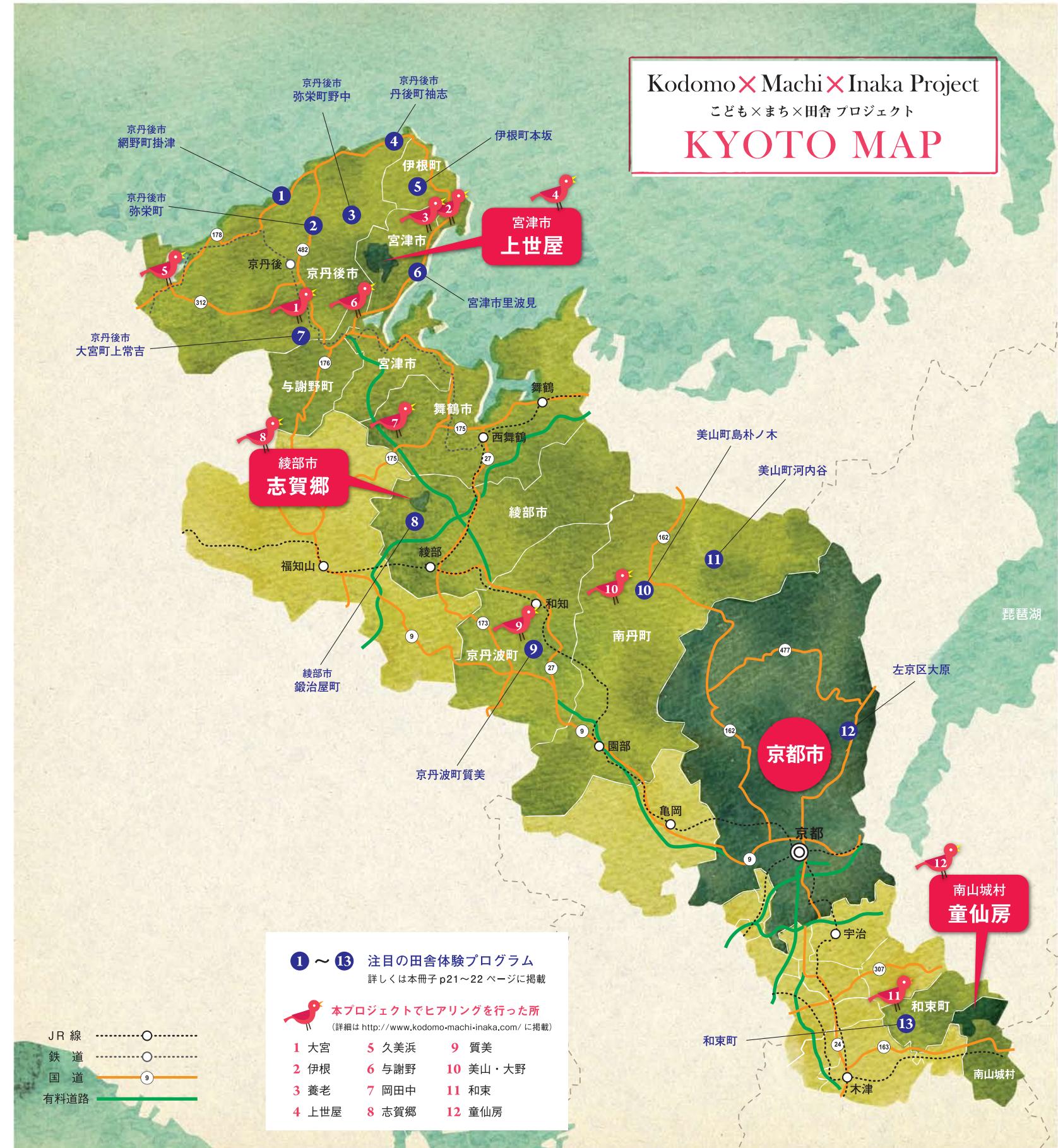
《都市農村交流 その2》童仙房 南山城村

- 11 山の上で子育て×アート
- 13 『森の食卓』in 童仙房

《都市農村交流 その3》上世屋 宮津市

- 15 子育てのフィールドを「都会」から「田舎」に置き換えてみると、何が見える？
- 17 子育てをする場所は、自ら選ぶ!?
- 19 フォトギャラリー「こども」という自然
- 21 注目の田舎体験プログラム紹介
こどもたちと田舎へ行ってみよう！
- 23 「こども」がつなぐ まちと田舎、人と自然
- 25 今回のプロジェクトで出会ったみなさま
プロジェクト概要

J R 線
鉄 道
国 道
有料道路

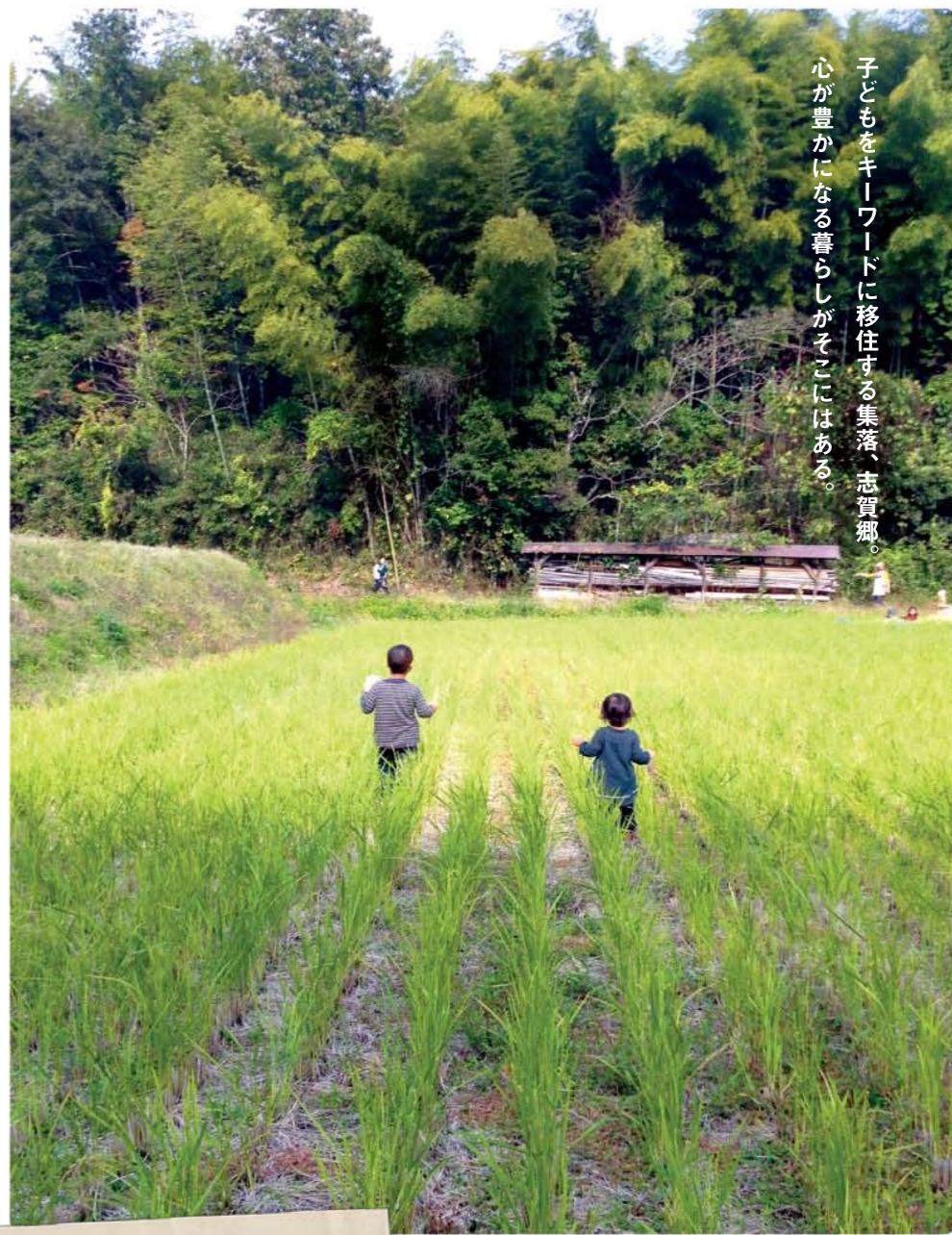




自分みつけた！子どもをキーワードに移住

「子どもをキーワードに移住」

子どもをキーワードに移住する集落、志賀郷。
心が豊かになる暮らしがそこにはある。



志賀郷ってどんなところ？

志賀郷地区は綾部の市街地から車で25分程度のところにある自然豊かな里山。市内でも過疎・高齢化が深刻な地区で、地区的小学生の総数は60名あまりで、地区的全人口1,500人のわずか4パーセント。しかし、他所からの移住者も多く、若い人が1ターンで住んでいる。できる範囲で食の自立をめざし、必要なだけの現金を自分の天職でかせぐ、なんとも理想的な生き方。現実問題、天職で稼ぐことの難しさもあるようだが、みんなきらきらしていた。

- 住所：京都府綾部市志賀郷町
- アクセス：（電車）京都駅より特急電車で一時間。綾部駅から志賀郷まで車で20分。（車）綾部ICより10分、綾部安国寺ICから20分。
- 問合せ先：（コ宝ネット）代表 井上吉夫 090-2103-0477



土地を愛し、人を愛し、子どもを愛す。



イベント会場だった井上さんの田んぼがある静かな谷に子どもの声が響く。
『田舎×まち』『大人×子ども』が交じり合い、暮らしに新しい風が吹く。

子どもは宝だ！

大きな施設ではなく、
人が集まり、活気がないとだめだ。
子どもの声が、子どもの姿が、
大人を元氣にする。



サンタパレードの様子。



志賀郷小学校では井上さんの指導のもと子どもたちがお米を育て、給食でいただいている。

井上さんの美味しいお米のご注文は
TEL 0773-49-1356 FAX 0773-49-1124 月～金曜日(9～17時)

志賀郷に
おいですよ！

志賀郷の人間関係が心地良さそうだ。
住民同士は、年齢関係なくお互いを
び合う。志賀郷の人たちは絆が
強い
上に、人との距離が近い。住民同士も
もちろんそうだし、外から訪ねる人
たちにもだ。訪ねて来た私たちも受け入れられる幸せを感じることがで
きる。

文・わっかの会・岡田嘉美子
Q かかりつけ米農家「お米の井上」
井上吉夫さん (61歳)
昭和26年綾部市志賀郷にて生を受ける。人に使われた
くないという思いから高校生で農業への道を選択。北海
道などで酪農を学び、志賀郷に戻って酪農を始めたが、
牛の健康状態が悪化し経営状況も悪化、多額な借金を抱
える。借金返済のため京都の大手漬け物会社の委託でな
すびの一次加工をした。同時に地元の農家から米を作っ
てくれないと依頼も増える。その後、ハウス崩壊を機
に稻作一本に絞り、こだわりの有機栽培を始める。

Q 井上さんのこだわりのお米って？

A 「自分で作ったお米は全て自分でお客様に届け、安心して美味しいお米を召し上がって欲しい」と、生産直売のスタイルを長年貫いておられる。「土は子・孫にと何百年も受け継いでいくもの。化学肥料を使わない農業をしている。」「農地は先祖からの預かりもの」と話す。

Q コ宝ネットとはどんな活動ですか？

A 高齢化過疎化が進む志賀郷地区の空き家に、
子どもや、将来子どものいる世帯の定住を
手助けして、地域に子供の声をとりもどそうとい
う取り組みをしているのがコ宝ネット。こどもと
古民家をコミュニケーションさせるという目的で
井上さんが声をかけて地元の人と移住者がグル
ープを作り活動が始まった。この子どもを大切にす
る移住促進活動が全国から注目されている。

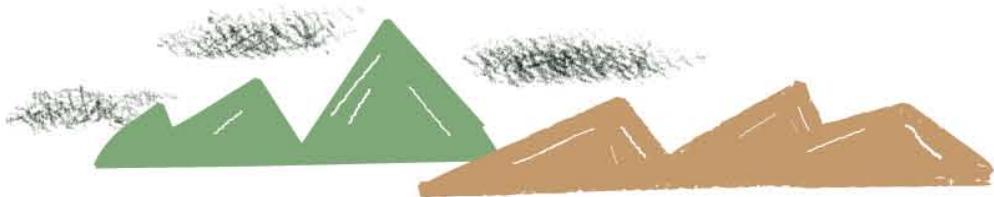
● コ宝ネットの詳細は
<http://kodakaranet.blogspot.jp/>

Q サンタパレードってどんなイベント？

A 志賀郷のクリスマスと言えばサンタパレード、もう10年以上続いている。トラクターに引かれる電飾いっぱいの山車が真っ暗な闇（村には街頭がなく、本当に真っ暗）に連なって、幻想的な夢を届けてくれる。各町区では志賀小学校6年生によるハンドベルの演奏が聴けると村の子どもからお年寄りまで楽しみにしている。クリスマスにぜひ訪れてみたい。

どんな暮らし していますか？

豊かな自然があふれる志賀郷。
やさしくあたたかい
地元の人たちに
支えられながら、
理想の暮らしを見つけた
移住者がたくさんいます。



**加納 昭文さん
まゆ香さん**
(屋号ばっかって)

**竹原 友徳さん
妙 妙さん**
(竹松うどん店)

**水田 裕之さん
さかえさん**
(水田家の食卓・
農業と加工品)

**安喰 健一さん
由美子さん
楓人くん**
(あじき堂・
半農半そば打ち職人)
(あじき堂女将)
(小4、楽作妖怪屋)

**金田 克彦さん (大工)
博子さん (米、味噌&醤油仕込み)**

**ハタノ ワタルさん (黒谷和紙漉き師)
ユキさん (和かばん制作)**

エネルギーと食の自給をめざし、自然農で野菜を育てながら、イベント出店、加工品作り、デザインの仕事をしている。昭文さんはアキミキングの名で絵本作家として活動。田舎暮らしを題材にした『百姓かるた』を作成、自然を愛す彼が描いた絵は見る人に優しい気持ちしてくれる。「かるたを通じて田舎暮らしの楽しさを伝えられるなら」と昭文さんは話す。

香川でうどんの修行3年、その後2年間修行のため全国さすらった後、志賀郷にUターンして、2010年竹松うどんをオープン。昔ながらの純手打ちうどんと薪釜のお店。地元の方に愛され、人が集う場、ここに来れば誰に会えると地元の社交場になっている。昨年末赤ちゃんが産まれて、ますますにぎやかに。今回のイベントでは2周年記念イベントたけまつりに遊びに行った。移住者の人たちと一緒に地元のおじさん、おばさんもお店を出していく、参加者みんなが楽しんでいる様子が印象的だった。

百回通で毎月15日に開催される手作り市でおなじみの水田家の食卓こと水田さん。農薬や化学肥料を使わない野菜づくり、その加工品は素朴ながら味わい深く、人柄を表している。あやべの農産物を放射能を気にする家庭に野菜を届けようとはじまった「小さなきもちプロジェクト」にも参加。さかえさんは村のままたちが未来明るいこどもたちを守ろうと結成した「ぽかぽかままで」にも参加。彼女たちが作る粉つき玄米を3時間かけて土鍋でゆっくりと煎った黒焼き玄米茶は体も心もぽかぽか温まる。

田舎暮らしをするために訪れた福井でそばに出会い、5年間修行をした後、大阪で2年、その後2008年に移住。家を探しているときに井上さんから電話があり、コ宝ネットの例会に呼ばれたのが志賀郷との出会い。米、野菜、そばを作り、農のある暮らしを実践。里山ねっと・あやべ（廃校になった豊里西小学校の施設）でのそば打ち教室を行い、そばを拠点に対話できる機会を作る。安喰さんのお子さん移住ってきてから登校拒否になったことがあるそう。『田舎だから学校へ行かないのは目立った。が、とここん好きな絵を描くことに集中。志賀郷三土市（さんどいち）では子どもが自分の作品を売ることで自信をつけた。地域に助けられた。感謝だ。』と語る。子どもも自分の天性を表現している。すごいぞ！

古民家再生に身も心も全力投球、大工の金ちゃん。ご自宅も築100年以上の古民家を素敵なお家に改修。コ宝ネットのイベントなどで多くの人が集う。いろんな人が訪ねて来てくれて、うちで交流することにより、志賀郷の良さを知ってもらうことができたらうれしいと金田さんは語る。今回のイベントではイベント参加者、地元の人たち移住者たち大人数で鍋を囲み、交流会をさせていただいた。

奥さんの博子さんは国産大豆の生産が少ないことに疑問を感じ10年以上前から大豆を育てている。ご自分で米、大豆を育て、お味噌とお醤油を仕込んで、食べる人に直接届けている。



子どもからお年寄りまで楽しめる
「百姓かるた」



こしのあろうどんは食べ応えあり



愛情込めて作られた野菜たち



かめばかむ程味わい深い、
素朴なお菓子



そば粉100%の十割そばは
そばの風味が味わえます



楽作妖怪屋として活動



金田三兄弟！！



自宅ギャラリー内装



コンニャク糊仕上げで、
少々濡れても破れる事はない



ばっかってのクッキー



竹松うどん店
京都府綾部市志賀郷町儀市前13
電話 0773-21-1665
<http://mensoule.seesaa.net/>

「小さなきもちプロジェクト」
野菜セット2,980円など
詳細は www.chiisanakimochi.com/
「ぽかぽかままで」 黒焼き玄米茶 30g500円など
詳細は <http://pokamama.jimdo.com/>

そば発送/そば打ち体験
問い合わせは ajikido@gmail.com

みそ(500g400円)しょうゆ(300ml500円)
注文は電話 0773-21-2069

展示会情報など
詳細は www.hatanowataru.org/



1日の夜、金田さんのお宅での夕飯、交流会。
みんなでいただく食事は本当に美味しい。



おばちゃんが作ってくれたおせんざいを食べながら
田んぼの中を散歩。



つりを指導してくれた下山さん。
つりにはえさがないといけないよなどみみずを探す。

『分け与える』が
暮らしの
土台にある
イベントでは地元の人たちが
それぞれができることをし、
無理なく支えあう姿が見ら
れた。自分の天性、特技、知
識を惜しみなく差し出す。
自分が育てた野菜、お料理
を持ち寄る周りの人に分け
与える。そんな社会で育つか
ら、子どもも分け与えるのが
あたりまえ。

竹やぶから細い竹を取つて来て、釣り竿を作る。太い竹を切つて来て、食器やはしを作れる。ナイフの使い方を教えてもらつて、竹をおみやげにもらつて帰つて来たが、うちで食器にしたり、細いものは剣にしたり遊び道具になつている。



金田さんの家の鍋を囲む。準備は地元のおばさん、お母さん、中学生の男の子、まちから参加したお母さんまでみんなでできることをやり、それを楽しむ。「飯食へながら今日あつたことを話したり、移住して来た人の生の声を聞いたり、子育てについて話したり、子育てについて話を楽しむ。こんな大人数を受け入れてくれる金田さんご夫婦、地元の人たちの懐の深さに感心する。

大人数で
食卓を囲む

自然のなかでのびのび子育て
これはしちゃだめだよ、これ
さわっちゃだめだよ。といつ
度経験して覚えていけばいい。それを許し、見守る、大人の度量が必要。かわりの
ある大人がすべての子ども
を温かく見守る。そのなかで
子どもがあそび、育つ。

これからはじまる楽しいこと



鶏プロジェクト

志賀郷の地元の大人、子どもとともに食育

子どもも大人と一緒に考える、参加する、働く、学ぶ。
どんな鶏小屋にしようか絵を描く、話す。大工仕事をする。
ひなを飼う。子どもがえさを与え、面倒を見る。
大きくなつて元気なニワトリが産んだ卵をいただく。
自分たちが面倒をみたニワトリが産んでくれた大事な卵。
卵を産み続け、年老いたニワトリをさばいてお肉をいただく。
生きることは食べること。
食べることはいのちをいただくことを体験。
「いただきます」と同時に「ありがとう！」が自然にできる。

問合わせ先：井上吉夫 090-2103-0477

わっかの会とは？

3.11以降大きく価値観が変わりました。
自分たちはどのように生きたいか？子どもたちに残したいか？
子育てを通じて人とながり、いのちと自然と繋がろう。わになろう。
いるものすべてが幸せでありますように。
持ち寄ったものをいただきながら、わになり、わいわいおしゃべりしています。
岡田喜美子：wakkankai@gmail.com

イベントコーディネート：田舎／井上吉夫 まち／こどもアート・加藤ゆみ、わっかの会・岡田喜美子
イベント協力者：田舎／柳原友子（料理）、柳原均（野菜、ニワトリ管理）、いい満（ロケットストーブ）
井上和昌（竹細工）、下山次弘（魚つり）、荻野さん（植物、水生動物に詳しい）

里山の暮らし体験

～子どもも大人もとことん遊び尽くす～

里山の暮らしで気づいた子育てにとって、家族にとって大事なこと

2012年10月27・28日の2日間、綾部市志賀郷にてイベントを行いました。

1日目はガーデンカフェ兎遊さんの奥にある井上さんの田んぼが会場。

子ども体験イベントにあるようなプログラムは特に組みませんでした。

「子どもが自ら遊びたいものを選び、やりたいことをやる。

自然はなんでも与えてくれ、地元のおじさん、おばさんがなんでも教えてくれる。」

2日目は竹松うどんさんの2周年記念イベント『たけまつり』に参加しました。

移住組や地元の人がお店をだし、ライブもあり、

「自分が主役」、みんなが楽しんでいました。

田舎暮らしのこと、綾部・志賀郷のこと、いろんなお話をできました。

ガーデンカフェ兎遊 <http://www.gardencafetoyou.jp/>

田舎
コ宝ネット
(綾部 志賀郷)



まち
わっかの会
(京都市内)



（志賀郷との出会いについて）
田舎暮らしにあこがれを持つ子育て仲間10組で
夏休みに綾部に行き、「コ宝ネット交流ツアー」
流しそうめん大会に参加したのが
志賀郷と私たちの出会いです。



暮らしの中での
火を使う
ガスで調理するのがあたりま
え、さらには電気で調理する
理する。自然はなんでも与え
てくれるんだということを忘
れがちだ。自然にある薪、小
枝葉っぱで火をおこして、調
理する。現代。火は暮らしに欠かせない
大切なもののということを忘
れがちだ。自然にある薪、小
枝葉っぱで火をおこして、調
理する。自然はなんでも与え
てくれるんだということを忘
れがちだ。自然では火を見ることがない
家では火を見ることがない
現代。火は暮らしに欠かせない
枝葉っぱで火をおこして、調
理する。自然はなんでも与え
てくれるんだということを忘
れがちだ。自然では火を見ることがない
枝葉っぱで火をおこして、調
理する。自然はなんでも与え

こんなことありました

まちから参加した小学生の男の子。学校では落ち着きがない、ちゃんと話を聞かないなどと問題児のように言われているそうだ。そんな彼はまわりの大人と積極的に会話し、のびのびと過ごしていた。彼には学校というシステムが居心地が悪いのだろう。里山で遊ぶ子どもたちの目は好奇心でキラキラしていた。

地元の子がもらったおせんざいを転んでこぼしました。「またもっておいで」と声をかけると「そうしたら他の人がなくなってしまうから」と答えた。また他の子は「これおいしいよ」と自分のお皿のものを分けてくれようとした。大人の私がはっと考えさせられた。



自然と共に生活しているからこそ出来る子育て
そこにアートがあるから人と村が活気づく

山の上で子育て×アート



南山城村ってどんなところ？

南山城村は、京都府の東南端に位置する唯一の村。北は滋賀県甲賀市、南は奈良県奈良市、東は三重県伊賀市と三県に接しています。その村北部の標高500~600メートルの高原に童仙房という集落があり、そこには山の斜面を利用した茶畠と、心地良い美しい風景が広がります。旧野殿童仙房小学校で年に一回行われる山ノ上マーケットは、クオリティの高い手作りの品や美味しい物に出会える場所だけあって、物作りの人たちにも注目されている場所もあります。

- 住所：京都府相楽郡南山城村童仙房区
- アクセス：〈電車〉JR関西本線で大河原駅下車、車で10分。
（車）木津ICより車で40分。
- 問合せ先：〈ARABON〉Tel: 080-1566-8822



京都市内から車で1時間半。童仙房を訪れたときのゆったりとした心地よい空気感。そして、どこか懐かしい風景が心をホッとさせてくれます。坂内里恵さんとお話しすればするほど、人との繋がりや、自然と共に生きることを楽しんでいらっしゃるお二人の魅力に惹きつけられました。田舎生活だけを楽しむのではなく、アートを通して自分のため、子どものため、みんなのために外に発信されています。都会で生活をしたことがあります。からこそ出てくるアイデアであったり、新しい生活スタイルが移住者によってこれからもっと作り出されていくと思います。

童仙房で第一回目のミーティング

文：どろんこ・デッケコルニル加奈子
山ノ上マーケット、ARABON、エコファーマーuetraue、ハト畠など。こだわりのものがまちの人々たちが田舎とまちを繋げ、人と地域を活気づけていくのだと思います。

新しい生活スタイルが移住者によって作り出されていく



坂内家の楓子ちゃんと葉くん。自然のものが遊び道具になり、どんどん楽しい世界が広がっていきます。

ものづくりの発信源。 山ノ上マーケット

地元の農家の方、ものづくりをされている方、気心のした仲間が集まって開催される楽しいマーケット。このマーケットが生まれた2009年にはこじんまりとした店舗数だったのが、今では70店舗近く出店されるほど大きなマーケットになってきています。こだわりのある物たちがこの日にたくさん集まるだけあって、遠方からもたくさん来られるそう。こういう場が結ぶ縁。そして、ここからあらゆるコミュニティーが生まれます。この山ノ上マーケットで南山城村に移住を決めた方もいらっしゃいますよ。そして、ものづくりの発信源にもなっているだけあって、アートに関わる方がたくさん住んでいらっしゃいます。



Q 移住してよかったことは？

A 友だちが増えた！こんな山の上に住んだら寂しくなるかな、と思いつかや、みんなが応援してくれて、家族を連れて遊びにきてくれて、移住前よりずっとつながり感が強くなりました。それと「移住・就農」と一步踏み込んだことで、同じようなことを考えているステキな友だちができました。

Q これからしたいことは？

A 昨年の夏は初めてトマトが実り、みなさんに喜んでいただけたことができました。これからはもう少し畑を広げ、お米や加工品なども提供できればと思います。また都市に住む人たちに野菜やお米を食べていただきだけでなく、畑や田んぼに遊びにきてもらいたい。そういうワークショップでみんなと一緒に楽しみながら命のつながりを感じられたらと思います。



ハト畠の甘くて濃厚なトマト

Q 田舎暮らしでこどもにオススメなことは？

A 自然の恵み、季節の移り変わりをありありと感じることができること。鹿や猪に畠を荒らされたりする一方で、村の獵師さんから鹿・猪の肉をいただいたら、日常的に人間と自然との関わりに触れることができます。虫も平気になりました。前はarinonこにも触れなかったのに、今では蝶を手でつぶしたりするのでこちらが驚きます。

2013年11月3日、旧野殿童仙房小学校にて「森の食卓」というイベントを行いました。

まちの子どもたちが、その土地にある物を使って食卓を作り上げていく。
そのなかで村の人との交流、野菜や自然との出会い。

五感をワクワクさせながら何かを作り上げていく。

大人たちは「コドモゴロ」を呼び戻す。そんな楽しい時間を過ごしました。

「森の食卓」in 童仙房

田舎
南山城村
童仙房



まち
どろんこ
子育てサークル
(左京区)

(イベント参加協力者)
中村 富士夫(猪肉) Harmony 卑(移動式おくどさん)
uetaeue(米・野菜・竹・へちま) <http://uetaeue.com>)
デルベア(バウムクーヘン) <http://www.derbar.jp>
front 岡田 良太(フードサポート)
しげたけ組合員 ドンコ(しげたけダンス)
(共催)
南山城村魅力ある村づくり推進室
(イベントコーディネーター)
加藤ゆみ(NPO法人こどもアート)
清水のばら(ARABON) 坂内里恵(ハト畠)
デッケルルルル 加奈子(どろんこ) 藤田 智子(どろんこ)

親子も子ども無心になってギョギョ
森の中にある素材でテーブルコーディネイト
青空の下で思い切り描けるって最高!
お花も童仙房でとっべきました
お茶会のためのお飾りを制作中
子ども達はアートの天才です
ヘチマたわしを作っています
お茶会のための手作りお飾り

この上に、どんなお菓子がのるのかなあ。

10月3日
イベント準備(まち側)



10月3日
イベント準備(まち側)



アンチク工場で作った
キノコが名札バッヂになりました

まち側のママたちが作りました。
イベントになると便利なものに変身。

初めての陶芸。ドキドキ。

11月3日
イベント当日

電車の旅も楽しい!

到着! まずは自己紹介。

8:00
童仙房へ出発!

10:30 到着!

12:30

火をおこす 薪でご飯を炊く

おぐどさんのご飯を自分が作った竹の器でいただく

猿師さんの猪肉の唐揚げ

14:00
竹とたき火でバウムクーヘン作り

南山城で採れたお野菜・お米・猪肉。どれもこれも新鮮で美味しい!!

17:00
最後は... しいたけダンス♪

お茶席をアートで演出

密かにまちと田舎の
こどもたちが
交流していたようです

ほら、こんなに
太くなってきたよ

うまくバームクーヘンできるかな

村のこどもたちも、デルベアさんのごだわり
バウムクーヘンの種づくりに挑戦

16:00
お茶会をしながら、村とまちの交流

最後に、しいたけダンスで
グッとみんなの距離が縮まりました

イラスト 坂内里恵

17:00
最後は... しいたけダンス♪

お茶会をしながら、村とま

子育てのフィールドを「都会」から「田舎」に置き換えてみると、何が見える？

共に経験を積むことでまち人は里人に脱皮していく。



上世屋ってどんなところ？

世屋(せや)は、京都府宮津市北部にある地区の名称でかつての与謝郡世屋村。5集落で構成されており、棚田と里山風景が美しい「丹後天橋立大江山国定公園」の一部。

標高340～370mに位置する上世屋は、棚田と、その間に点在する伝統的な笆葺き民家が織りなす美しい里山風景で、誰もの心を暖かく包み込む。一度も訪れたことがない者たちにさえ、懐かしいふるさとに戻ったような気持ちにさせる。

- 住所：京都府宮津市上世屋
- アクセス：(電車)北近畿タンゴ鉄道「岩瀬口駅」より車で30分
(車)京都縦貫自動車道「与謝天橋立IC」より約30分
- 問合せ先：(セヤノコ)<http://seyanoco.jimdo.com/>
(合力の会)<http://kamiseya.com/>



お米の収穫が終わると、上世屋（かみせや）は直ぐに冬支度の季節を迎える。積雪が2メートルを超える上世屋の家は、「雪囲い」をして雪害から家屋を守る。暖を取る囲炉裏・オクドサン・五右衛門風呂を沸かす「薪づくり」も、冬に向かうための重要な仕事のひとつ。生活に密着した季節感のある作業を一つ一つこなすこと、田舎暮らしの一年が過ぎていく。

だが、この地に暮らすとなると、どうなんだろう。「雪の朝は、道路の雪かきから」との話を聞き、雪に埋もれた日々を想像するだけで躊躇してしまう。「先ずは田舎暮らしに興味を持つことから…」とは、お世話頂いた「セヤノコ」代表の小山有美恵さんの言葉。上世屋での活動は、宮津から遊びに来る親子に村の暮らしを伝える。

そのため、京都市内とこの里山を往復する小山さんが、「いざれ子育て世帯がいくつか住む村になつて欲しい」という願いを持って、日々を過ごしている。



囲炉裏のごちそう

かまと炊きのご飯、囲炉裏にかかる大鍋に、子どもも大人も大興奮。勿論、里の暮らしに電気もガスもあるが、このおもてなしは最高！



オクドサン

火吹き竹を使って、力いっぱいがんばっているよ～。早く蒸しあがれ！早くお餅が食べたいなあ。



畠で収穫、即、食べる！

畠に行き、大根を抜く。合力の家に戻り、大根を持ち、桶のまわりに座り込む。井戸端会議よろしく、泥落としをしながら、おしゃべりの花を咲かせる子ども達。夕食も朝食も大根尽くし。「ここのはみんな美味しいね！」



棚田と伝統的な笆葺き民家が織りなすどかな里山は「ほんの里100選」「日本の里地里山30選」に選定されている。



銚子の滝

2日目の朝、お散歩を行った。澄んだ豊かな量の水が用水路に流れている。水が豊かな地域なので、米も野菜もおいしいのだろう。子どもたちの列に付いていくと、「上世屋観音堂 銚子の滝」の看板。道の横を流れる川幅は狭く、余り期待せずに歩く。が、到着しビックリ！落差19mもある立派な滝である。その手前には観音堂と呼ばれる成相奥院がある。地域の信仰の場として美しく整備されていた。





「藤織り」とは？

世屋では文化が大切に継承されている。綿の栽培が出来ない高冷な山間部だった為、藤織りが受け継がれた。既に日常生活からは消えているが、上世屋では丹後藤織り保存会を組織し、「藤織り伝承交流館」では、途絶えないよう、藤蔓から繊維を取り出して織り上げる一連の作業研修を続けています。京都府の無形民俗文化財に指定され、保存会会長は「合力の家」の主の井之本 泰さん。

<http://www.kyt-net.jp/po/>

「合力の会」とは？

合力を“こうりょく”と読む。丹後地方の方言で手助け・加勢・援助を意味する。会では放棄されたり高齢化で耕作出来なくなったりした棚田を、子どもから大人までが昔ながらの手植えをし、棚田の傍の稻木で干す米作りを行う。作業に関わる人は年に100人を超え、働きに応じ米を貰う合力米のシステムは、上世屋の棚田の再生の大きな力となっている。代表の井之本さんは、丹後の資料館で郷土史などの研究をされていたが、もっと地についた動きを作り出そうと移住したという。「合力の家」は会の拠点で、今回、貴重な体験の場となった。

<http://kamiseya.com/>

「セヤノヨ」とは？

乳幼児の親子や小学生の子ども達が上世屋の自然の中で過ごす活動を定期的に実施している団体。代表の小山さんは、2007年より関わるNPO里山ネットワーク上世屋での経験もあり、着実に地域に根付いている。活動に参加する年齢層は、乳幼児と親、小学生が多い。

<http://seyanoco.jimdo.com/>



豊かな自然の中で仲間との体験を重ね、心豊かになっていく子どもたち。お父さん達も今日は大活躍！



まち側参加者の声

大人から

- すべての体験が初めてで新鮮に感じましたが普段の生活となると大変なのかもしれないと思いました。ただ便利な生活をしていることにも疑問を感じていたので考える良い時間を持てました。
 - 「何が楽しかった？」と聞いたら「全部！！」と言っていました。テレビや本で見たことはあっても実際に見るのは初めて(囲炉裏やもちつきなど) 実家が農家ですが畑を行ったことも野菜を収穫したこと也没有でした。貴重な体験をさせてもらって本当にありがとうございます。いつまでも忘れないでいてほしいです。
 - 簡単にものが買えない、雪が降る、病院がすぐ近くにない…、そんな中、個性的なみなさんが助け合っておられる。そして、新しい人たちも、自分たちだけの輪ではなく、地域に溶け込むようされている。限界集落を守っていくには、助け合わないと暮らしれないということの大切さを感じました。
 - 大根根据て
● 上世屋大好
● 昔ながらで
とてもきれ
● 田が広がっ
田植えをし
● 冬に行って雪
● なぜ、昔が
残っている
● 何かされい
● おいも掘り、

子どもから

- 大根掘って楽しかった。
 - 上世屋大好き♡
 - 昔ながらで昇ってくる朝日がとてもきれいでした。
 - 田が広がっていたので田植えをしてみたいです。
 - 冬に行って雪で遊びたいです。
 - なぜ、昔ながらの物などが残っているか知りたいです。
 - 何かきれいな所だと思った。
 - おもいも掘り、おもちつきをまたしたい。

〈NPO 法人 子育てを楽しむ会〉

宇治大久保にある「つどいの広場りばん」「おうちサロン」や、「赤ちゃん広場」等のイベントで多くの親子が地域とつながり、子育て第一歩を歩み出すための支援をしている。だっこひもや手作り小物の販売や相談も受付中。

<http://www.yjikko.net/yjikosodate/>

〈NPO 子育ての文化研究所〉

訪問日：2012年11月24日(土)～25日(日)
宿泊地：宮津市上世屋901番地 合力の家

田舎側…上世屋地区の皆さん、合力の会(代表:井之本泰
セヤノコ(代表:小山有美恵)
まち側…NPO 法人 子育てを楽しむ会(代表:迫きよみ)
朝生(17歳)、高木(16歳)、佐々木(15歳)、西原(14歳)



子育てをする場所は、自ら選ぶ!?

セヤノコの有美恵さんと棚田・稻木・里山林・伝統的な造りの民家群の織りなす世屋の里を歩く。道端のイノシシが掘つた跡が生々しい。伝統の笹葺きの屋根は、その殆どがトタンで覆われている。文字通り笹葺きだ。この素材故、1944年に葺き替えにものすごい手間が掛かるからだ。葺かれた屋根を良く見ると、チマキザサがびっしりと積み重なっている。文字幕らしを管理している。また1961年に埋まつた。例年でも2メートルの積雪の三八豪雪では6メートルを超える積雪となり、毎朝の雪かきは休むことが出来無い。

この厳しい気候が美しい景観を守り、余計な人や文化を寄せ付けなかつたのだろう。現在、ここのは住民は12家族23人。子どもがいなくなつて20年余りが経つ。やかだつた頃の上世屋小中学校の運動会の写真を見ると50人近くの子どもが写つている。そんな昔のことではない。

今、この地を子どもの声が響く地域に再生しようとしている。セヤノコでは、地道な活動を重ねておられる。日々の活動を通して子どもが住民として戻る日はそう遠くなづいとのおもいが生まれたと言つ。勿論、課題は多く、ハードルも高い。が、実際にこの地に足を踏み入れなつかしさに溢れる風景や心豊かな人たちと過ごしたらさつた。到着して直ぐの食事は丹後名物、滷息が出るほど美しい里山。この地で大家族の暮らしをしてみたいと訪れた私達を、上世屋のみなさんが囲炉裏やオクドサンなどの体験・餅つきなど用意してくれた。

サバ缶のバラ寿司。コンニャク、豆腐、ソバ、インシの肉、漬物、かき餅……と、自家製の品ばかりが並ぶ。ド田頃とは違う何やら不思議な食卓だと思いながら、思いっきり食べる子ども達。囲炉裏の大鍋には取り、「合力の家」を歌・手品・組体操、魔法がかかり、満点の味になる。囲炉裏の暖かさと集う人々の暖かさのなせる業か。子ども達はテレビの無い長い夜を逆手に踊りで劇場にした。ほんの数分の打合せを挟みながら続く舞台は、自給自足の営みそのものだった。大人達は子ども達の柔軟な姿に感動した。子ども達の行動を見、親たちは田舎で子どもを育てることを考える契機となつたと言つ。

冬に備える雪廻いの作業にも関わらずで頂いた。積もった雪でガラス窓や壁が壊れるのを防ぐために、竹を結わえ骨組みをつくり、トタンをかぶせる。「雪から家を守る」という意味が、皆で作業を一緒にする中で少しずつ理解できるようになつた。共に経験を積むことで、まち人は里人に脱皮していくのだろう。

自給自足を強いる程、町から遠いのではない。スーパー、マーケット迄は車で20分程。そこで日常使いの消耗品や食料品は揃うし、バスも予約制ではあるが週3日走っている。標高でいえば3400m、3700m、車さえあれば何とでもなる。要是は「この地で暮らしたい」という願いをどう実現させるか」なのだが、それには子育てに対する価値観が大きく関わる。自然に逆らわず、不便を楽しめる人が、ありのままの上世屋を受け入れる時、子どもの声が響く村になるのだろう。

「次に行くのは春かな……」と、まち人たちは上世屋への再訪を楽しみにしている

A group of approximately ten children, mostly of East Asian descent, are standing in a row outdoors on a grassy hillside. They are dressed in colorful winter clothing, including various hats, coats, and scarves. Each child is holding up a small, rectangular yellow book or card towards the camera. The background features a scenic view of rolling hills and mountains covered in green and autumn-colored foliage under a cloudy sky.



「こども」という自然

こどもたちの眼は、好奇心でキラキラ。野山をかけまわり、全力投球。

力いっぱい走って、転んで、笑って、けんかして、あそびから、たくましく「生きること」を学ぶ。

自然とともに暮らすこと、そこには、生きた真の学び、遊び、歓びがある。

MAP 9 |

旧質美小学校で、おはなしを楽しもう！

山の中のおはなし会
京都府船井郡京丹波町質美上野43 旧質美小学校



田舎の旧質美小学校の木造校舎の中や近くの八幡宮の社の中で、のんびり、ゆったり絵本を読み合ったり、紙芝居を観たり、ゲームをしたり、おはなしの世界を楽しめます。

●開催時期：随時 ●定員：親子10名まで ●料金：無料
※詳細はお問い合わせください。
(問) 絵本の店 絵本ちゃん
TEL: 090-2705-8622 mail: ehon@kyoto.zaq.jp
http://www.ehonchan.net/

MAP 8 |

21世紀のほんとうの生き方、暮らし方を求めて

平和都市・綾部は里山の地。移住地としても人気です。
京都府綾部市鍛冶屋町茅倉9



1999年開校となった旧豊里西小学校で都市農村交流をおこなっています。石窯パン焼きやそば打ち、農業体験（米づくり、そばづくり他）、森林ボランティアなど、合宿等でご利用ください。

●開催時期：石窯パン焼教室（毎月第2日曜定例会）、10名以上グループは要相談、森林ボランティア（毎月第3土曜定例会）、米づくり塾（5月～9月）そばづくり塾（8月～12月）など ●対象：定員：通常10名から参加可、石窯パンを団体でご希望の場合は10名から ●料金：石窯パン焼教室1500円（試食込）。他の事業はホームページをご覧ください。
(問) NPO法人里山ねっと・あやべ TEL: 0773-47-0040
http://www.satoyama.gr.jp/ (NPO法人里山ねっと・あやべ)
http://ayabesatoyamacolege.net/ (綾部里山交渉大学)

MAP 11 |

おひさまこども俱楽部

豊かな自然と暮らしの知恵の中で「つながり」を見つけよう
四季のできるさと体験は人生の宝物
京都府南丹市美山町河内谷



かやぶきの民家が残る農山村の原風景と伝統的な暮らしや考え方方が子供たちに多くの学びの機会を与えてくれます。自然体験（野草、川遊び、森遊び、スノーシュー）、わら細工、囲炉裏やおくどさんでの食事、地域の皆さんとの交流を行っています。

●開催時期：通年 ●対象：小学3年生～6年生／定員：15名（保護者同伴の場合は最大30名様） ●料金：全休（2泊3日）23,500円（食事・宿泊・体験・送迎費）春・秋冬期（1泊2日）16,500円（食事・宿泊・体験・送迎費）
(問) 財団法人美山町自然文化村「柿の木山」
TEL: 0771-77-0014 mail: kajika@cans.zaq.ne.jp
http://www.cans.zaq.ne.jp/m-kajika/

MAP 10 |

身近にある自然の恵みと暮らしてみよう

水と木火の恵みと生きる里山暮らし体験
京都府南丹市美山町島朴木舟



身近な資源を活用して暮らす様々なワークショップを開催。石窯や各種薪ストーブの調理体験、ロケットストーブ作り、集落の水路を辿り小さな水力発電を学ぶトレッキングツアーや、薪のある民家の暮らし宿泊体験など。自然から学び、強くしなやかに生きる知恵を養ってもらえればと思います。

●開催時期：通年 ●対象：小学生低学年以下は要保護者同伴、概ね10～20人程度 ●料金：3,000円～宿泊体験5,000円～
※詳細はお問い合わせ下さい。
(問) NPO法人美山里山舎 TEL: 0771-75-0015
mail: info@satoyama-sha.com
http://satoyama-sha.com

MAP 13 |

和束町古民家改修PJ

茶畑を臨む古民家をセルフビルで改修
京都府相楽郡和束町



土壁づくり、柿漆塗などできる範囲のことを自分たちで行うセルフビルで古民家を改修しています。その活動を通じて、和束町を知ってもらい、地域の方との交流を図っていっています。

●開催時期：不定期（月2回程度）
●対象：作業に応じて決定 ●料金：なし（ボランティア）
(問) NPO法人クリエーターズ・ジャパン 代表 村岸 秀和
TEL: 075-551-0512
mail: info@creatorsjapan.jp
http://creatorsjapan.jp/

MAP 7 |

つねよしまるごと百貨店

百貨店を起点に村・体験・発見！村のお宝
京都府京丹後市大宮町上常吉123-2



地域の暮らしを支える「つねよし百貨店」をスタートします。石窯パン焼きやそば打ち、農業体験（米づくり、そばづくり他）、森林ボランティアなど、合宿等でご利用ください。

●開催時期：石窯パン焼教室（毎月第2日曜定例会）、10名以上グループは要相談、森林ボランティア（毎月第3土曜定例会）、米づくり塾（5月～9月）そばづくり塾（8月～12月）など ●対象：定員：通常10名から参加可、石窯パンを団体でご希望の場合は10名から ●料金：石窯パン焼教室1500円（試食込）。他の事業はホームページをご覧ください。
(問) NPO法人里山ねっと・あやべ TEL: 0773-47-0040
http://www.satoyama.gr.jp/ (NPO法人里山ねっと・あやべ)
http://ayabesatoyamacolege.net/ (綾部里山交渉大学)

田舎体験プログラム紹介

こどもたちと一緒にあそび、
学べる魅力的なところがいっぱい。
地元で暮らす人々と触れ合い、
暮らしがもっと楽しくなること、
発見しよう！

こどもたちと 田舎へ行ってみよう！



MAP 3 |

京都丹後の溪流で自然体験

野間の自然で遊ぶ！目指せあそびの達人！
京都府京丹後市赤町野中（野間地域）



「大自然は最高のテーマパーク」。川遊びやりとり体験、生き物調査では天然のカニやうなぎとの出会いもあるかも…。田舎を知り尽くしたあそびの達人たちと一緒に大自然を遊びで学ぼう。目指せ！あそびの達人！

●開催時期：あそびの学校～8月上旬 アユ釣り体験～7月上旬～9月下旬
●対象：あそびの学校：子ども アユ釣り体験：親子 ※詳細はお問い合わせ下さい。 ●料金：※詳細はお問い合わせ下さい。
(問) 溪里野間（事務局：田村）
TEL: 0772-66-0002 http://noma2011.jimdo.com/ (溪里野間)

MAP 2 |

未来の食卓を考えよう！

食べるということは、生きるということ。
命を受け継ぐことを一緒に学びませんか？
京都府京丹後市弥栄町



お皿に盛られたお料理の食材は、全ていのちです。おやさい、お肉、魚、肉、どれも自然界とつながっています。森や海、野原、この大自然の中にある田んぼや畠。「毎日食べているお野菜やお米は、この大自然とつながっているんだよ！」を実感して頂けるようなワークショップを行っています。

●開催時期：季節開催（春、夏、秋、冬）(問) 梅本農場（代表：梅本 修）
TEL: 0772-65-3884 mail: umechan@mxc.nkansai.ne.jp
http://www.umechanfarm.com/ (EM 自然農法梅本農場)
http://www.umechanfarm.com/MT/ (きょうのうちゅん)

MAP 1 |

田舎が生み出す大自然と食のコラボ体験！

地元の元氣印！琴引浜まんまると体感する丹後の魅力
京都府京丹後市網野町掛津



掛津のおかあさんたちで結成する「琴引浜まんまるくらぶ」鳴き砂で有名な琴引浜での貝殻クラフト作りや郷土料理の丹後ばらずし作りを実施。親子で楽しめる体験メニュー満載！大自然と食、そして人、丹後の魅力がここにあります。

●開催時期：丹後ばらずし作り体験・春～秋、貝殻クラフト作り体験・通年実施
※地元にも多数のண்ணக்கள்があります。詳しくは webをご覧下さい。
●対象：あそびから大人まで、どんな人でも大歓迎!
●料金：※詳細はお問い合わせ下さい。
(問) 琴引浜鳴き砂文化館 TEL: 0772-72-5511
mail: kotohiki@nakisuna.jp http://www.nakisuna.jp/

MAP 4 |

みんなで再生！袖志の棚田を未来へ！

振り返れば日本海、絶景柳田でのお米づくり体験
京都府京丹後市丹後町袖志



「袖志の棚田」で米づくり体験。耕作されなくなった田んばをみんなの手で再生し、丹後産コシヒカリを作っています。裸足で田んばに入り、素手で収穫して田日干し。昔ながらの稻作体験、食への感謝を感じながら頂くお米は絶品！

●開催時期：5月～5月2週目の土曜日 稲刈り～9月2週目の土曜日 収穫祭～11月旬の土曜日 ※日程はその年の天候によって変更します。
●対象：ごくまれに大人まで、どんな人でも大歓迎! 定員：20人
●料金：体験料は無料（現地までの交通費や食事等は各自負担願います）
(問) 袖志棚田保存会（会長：平井）
TEL: 090-5881-1634 (事務局)
http://www.facebook.com/sodeshi.tanada
http://tanada-hozon.jimdo.net/

「こども」がつなぐ

まちと田舎、人と自然

田舎って子育てにいいかも？
村にこどたちが来て欲しい！
そんな想いの、子育て世代と田舎を
元気にして！という人々が出会い、
交流する機会を持ちました。
みなさんの声をあつめてみました。

こどもたちは？

- また行こうね！また行きたい。息子から何度も言われた。
- 村のお兄ちゃんが、最後にハイタッチ！
息子と小さな心の交流があったよう。
- あんなところに住んでみたい。本当に楽しかった。
- 何かきれいな所だと思った。
- 滝の上はどうなっている？水はどこから流れてくるの？（3歳児）
- おやつがめちゃくちゃおいしかった。

こどもが変わる、 大人や地域も・・・

- 地域みんなでこどもを育てる。こどもの育みとともに、
地域も育まれていく。
- 田舎は、不便、不自由も多い、人間関係も濃い。
みんなが支え合い、助け合いで生きる社会。
- 新しい自分を見つけ、自ら行動を起こさないと、
田舎暮らしはできないと感じた。
- 田舎には、自分の存在を發揮できるところがたくさんあります。
- 田舎とまちの交流から、こどもを取り巻く「生活環境・地域」
のありようがどんなに重要か、気づききっかけになった。
- どんなところでも生きていく！その強さは、その人の存在意義や
使命感、土地への愛着などが、芯になっているような気がした。

こどもは、 自然がとっても似合う。

- 自分から何かを見つけ、遊び、人に関わろうとする様子が
多々見られ、親はうれしかった。
- こどもたちには自然に、その地域の生き方、暮らし、精神が
受け継がれている。
- 遊び道具がない分、逆にそれが自然にこどもたちを
つないだ気がする。
- 下の子の面倒を上の子がみる姿が微笑ましい。
みんなで遊ぶ姿が印象的。
- 大勢のこども～お年寄りの関わりの中で、こどもたちが
のびのび、生き生き、まだまだ秘められた可能性がいっぱい。
- 自然の中で、めいっぱい遊ぶ娘を見たとき、
とてもともうれしかった。

こどもたちが田舎へ行く

- 静かだった、里山にこどもの声が響き渡る。
野山やあぜ道を駆け巡る。こどもたちのエネルギーで、
村が活気づく。村が歡ぶ。村の人が元気になる。
- 「こんなことで喜んでくれるの？」「こんなところが面白い？」、
田舎の再発見。
- まちと田舎のこどもたちの交流を繰り返し、関係を育んでいきたい。
- こどもがいる大人は、自然と動く、笑う、楽しいと思う。
- 「こどもたちが来るぞ！」っと、村人どうしの団結、一歩中に入る
きっかけになった。
- 「またやろな！」村のおかあちゃんたちの言葉に感動！
- 予想以上に村の方にも喜んでもらえた。
- 田舎に住んでいるみなさんの知恵を、もっと教えて欲しい。

「こども」がきっかけに

- こどもがいるから、地域とつながれる。
地域の中で、こどもが真ん中で大事にされる。
- 子育ての場のひとつの中選択肢として田舎を選ぶ人々がいる。
- 生きる知恵と力を与えてくれる環境で子どもを育てたい。
- 四季折々、自然の豊かさを、感じながら子育てできる遊び。
- こどもがきっかけで、自然や田舎に興味をもった。
- 教育の不足、不満を、暮らし、地域社会でどう補うことができるか？
- こどもたちに経験してもらいたい環境は、実は、
親である自分たちが理想とする世界。
こどもの存在は、その原動力を与えてくれる。

田舎で大家族

- 迎えてくださる村の人の、元気と、熱意と温もりはケタ外れ。
- 自分も何か行動しなきゃっと背中を押された。
- 田舎の母と、一緒に台所仕事ができたみたいで癒された。
- たくさんの人と食卓を囲む楽しさを経験できた。
- こんな経験は、一人でも多くの人にしてもらいたい。
- 田舎は特別なことではない、ということに気づいた。
- そあって欲しい環境を守ってくれる人たちがいる。だから応援したくなる。
- なつかしい田舎の暮らしを、こどもたちにも体験させたい。
- みんなが協力して生活することの大切さ、コミュニケーション、
思いやりの気持ちを大切にする時間を持つことがうれしい。
- 「生きる」という共通目的のために、みんなが自然に
役割分担していく。助けあう。

暮らしを見直す きっかけに

- 消費生活をさよなら。安全な食べものや
安心できる生活、仕事についても見つめ直したい。
- 「このお米は、炊飯器で炊きたくない。」
小さな気持ちが芽生えた。
- 場所に縛られ過ぎない働き方を探していくたい。

本当の豊かさとは？

- 四季折々、自然の恵みに感謝し、自然とともに生きる暮らし、
助け合える仲間とのつながりを、考えるようになった。
そして生きる術を知ることも大事だと思う。
- 今、見えなくなってしまっている大事なことに触れることができた。
- テレビがない、こどもと語り合える。
- 不便から生み出される、育つこと、便利さゆえに削がれてしまうことがある。
- 手足を動かす暮らしの豊かさを体験させてもらった。

互いの立場を理解し、協力し、発信する中で、人は繋がり価値観を共有する。立場の違いを超えた人と人の繋がりは、過疎化の歯止めの一つとして大きな可能性を秘めている。このことが1ターンの最大の支えなら、まちで暮らし難さを感じている若い人や子どもたちへの選択肢の一つともなり得る。受け入れる里は、まちの新鮮な風・子どもの声が活気づけてくれる。互いの存在そのものが大きな役割を担う。尖った心を溶かす魔法の力になる。この動きが、府内各地で加速するのを切望する。

朱まり子（NPO子育ての文化研究所 代表）



今回のプロジェクトで出会ったみなさま

無限の可能性が秘められている。
『こどもの未来、おとのな未来』への
暮らしをつくりたいことを楽しみたい。
自然と人のつながりの中で、
「こども」という自然が、
わたしの中の自然に出会う
きつかけを与えてくれる。



Kodomo × Machi × Inaka Project

こども×まち×田舎 プロジェクト

(事業内容)

調査

京都府下、約 10 の地域にて、田舎の暮らしと子育てについて、声を集め、現状や課題を掘り起します。

- 丹後(久美浜、大宮、上世屋、養老、伊根、与謝野)
- 中丹(志賀郷、岡田中)
- 南丹(美山・大野、質美)
- 山城(童仙房、和束)

イベント

京都府下の集落(田舎)と京都市内(まち)の若者・子育て世代のみなさまとの交流企画

- ① 2012.10.27-28 志賀郷・綾部⇔わっかの会(京都市内)
- ② 2012.11.3 童仙房・南山城村 ⇄ どろんこ(京都市内)
- ③ 2012.11.24-25 上世屋・宮津 ⇄ NPO 法人子育てを楽しむ会(宇治市)
- ④ 2013.2.28-3.23 こども×まち×田舎サロンを開催(京都市内)

ドキュメンタリー映像

こどもたちと田舎へ行ってみよう！
「子宝パンザイ - おいらは山の子だ！」



※詳細については、以下をご覧ください。

こども×まち×田舎プロジェクト
<http://www.kodomo-machi-inaka.com/>

連絡先

NPO 法人こどもアート
TEL : 075-777-5140
mail : info@asonabi.com
<http://asonabi.com/>

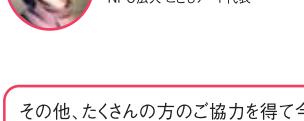
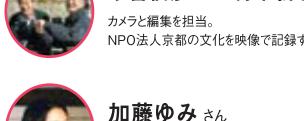
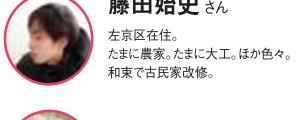
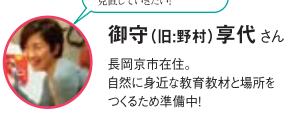
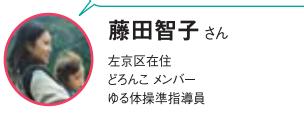
発行人：加藤ゆみ
デザイン・イラスト：梁川友世

※京都府中間支援活動団体委託事業(2012.7.24 ~ 2013.3.31)により実施
※協力：いのちの里京都村

宇治市内



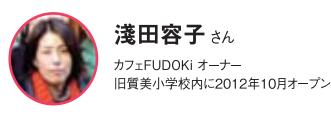
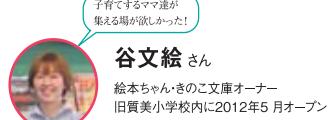
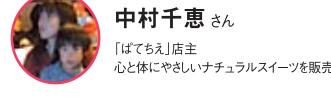
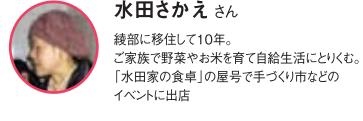
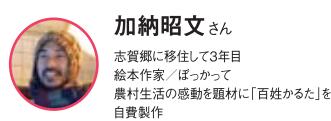
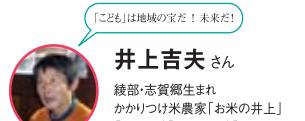
京都市内



※順不同

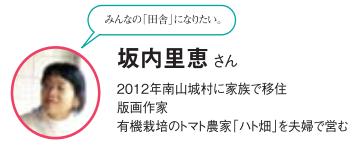
その他、たくさんの方のご協力を得て今回のプロジェクトを行いました。ありがとうございました。

志賀郷・綾部



2月28日～3月23日
こども×まち×田舎サロンを開催(京都市内・柴洋)

童仙房・南山城村



丹後

